

別紙A

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3度総括）

四日市市立川島小学校

校長 坂下 博夫

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

川島小学校の学校教育目標「仲間と共に成長する子」、めざす学校の姿「安心して学ぶことができる学校」の実現に向けて、地域の方や保護者に学校運営に参画していただき、協議しながら、教育活動や教育環境の具体的な改善・充実に向けて取り組みを推進しています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

・ 1年生 防災水の贈呈

毎年、川島地区防災会より、1年生の子どもたちに「防災水」の贈呈のセレモニーを実施してもらっています。しかし、昨年度に引き続き今年度についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言解除後の10月初めに、子どもとの接触を避け、校長室にて校長が受け取りました。



・ 3年生 福祉体験学習

10月に、四日市市社会福祉協議会の協力を得て、身体や聴覚、視覚に障がいのある方から話を聞いたり、一緒にスポーツで交流したりする福祉体験学習に取り組みました。障がいのある方との出会いを通して、誰もが人権を大切に、いきいきと暮らせる社会について考えました。

3年生が、サウンドテーブルテニス三重県代表の黒田さん、黒田さんの友達でサウンドテーブルテニスの審判もされる中野さん、四日市社会福祉協議会の安田さんにお越しいただき、いろいろな話を聞かせていただいた後、実際に、サウンドテーブルテニスを体験させていただきました。



・ 3年生「認知症サポーター」の学習

11月に、3年生が総合的な学習の時間に、「認知症サポーター」の勉強をしました。川島在宅介護支援センターの松田さん、生川会長さんをはじめとする民生委員の方々、高齢福祉課の方々に来ていただき、寸劇も交えながら、認知症についてわかりやすく教えてもらいました。



「認知症サポーター」とは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り支援していただく応援者のことです。四日市市でも、平成17年度からこの事業に取り組んでいます。最後に、講座を受けたということで、サポーターの証であるオレンジリングを頂きました。

・ 5年生 地域の福祉施設との交流

コロナ禍の中、一昨年度まで実施していた地域の福祉施設との交流を再開するため、直接触れ合うことがない手紙での交流を行いました。12月に、5年生が福祉施設の方に、学校生活の様子を手紙で伝えるとともに、折りづるを作製しました。手紙と折りづるは、川島地区社会福祉協議会の方に届けていただきました。その後、福祉施設で生活されているおじいちゃんおばあちゃんからも、お礼の手紙をいただき、子どもたちも喜んでいました。

・ 1缶からできるボランティア活動（児童会活動）

2月に、児童会が行っていたアルミ缶の収集が終わり、今日はその缶を市の社会福祉協議会の方に渡しました。20分休みに集合し、児童会を代表して6年生が挨拶をした後、集まったたくさんのアルミ缶をみんなで車に積み込みました。これで、2月初めのポスター・チラシ作りから始まった児童会の『四日市ボランティアキャンペーン・1缶からできるボランティア活動』が終了しました。とても良い活動になりました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

【学校評価アンケート結果】

本年度の学校教育活動アンケートにおいて、ほとんどの質問項目で、A Bの回答を合わせて約90%以上でした。しかし、経年変化をみたとき、前年度に比べ、「開かれた学校（授業公開）」の項目が16%ほど低くなりました。これについては、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響が多いと考えられます。全校行事や授業参観、各学年の行事等が中止となり、学校の様子が保護者に伝われにくかったことが考えられました。今後は、コロナ禍でも開催できるように、行事の持ち方を工夫したり、オンラインを活用したりするなど、開かれた学校づくりをしていきたいと思えます。

【子どもたちの様子】

今年度も、回数としては少なかったですが、各学年で地域の人々やゲストティーチャーを招いて、直接お話を聞いたり交流したりする学習を行うことで、住みよいまちづくりのために地域の方が活動していることを改めて知る機会となり、理解を深めることができました。また、自分たちにできることは何か、今後どのようなことをめざすのかについて考えることができました。

【教師の意識】

総合的な学習の時間の探究的な学習活動として、地域の方との協働的な学びを模索してきました。今年度もコロナ禍の中、教職員のアンケートからも、学校行事や学年行事、授業参観等、中止となった行事も多く、十分な活動ができなかったという意見が多くなりました。次年度以降も、人との出会いを取り入れ、地域の方との協働による学習の充実は、本校の特色ある教育活動として、年間指導計画に位置付け継続していきたいと思っています。

3 今後に向けて

四日市版コミュニティスクールの指定を受け、4年目となりました。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの影響が大きく、地域と連携した活動がほとんどできませんでした。特に、本校のコミュニティスクール事業のメインでもある、夏季休業中に実施している「未来塾」についても、開催することができませんでした。さらに、次年度は、北校舎の大規模改修が夏季休業中に予定されており、「未来塾」を学校の教室にて実施することができなくなりました。今後の「未来塾」のあり方についても、検討する必要が出てきました。

今後も、運営協議会で協議をしながら、地域の教育力を活かし、保護者・地域・学校がともに協働し、教育活動の充実を図っていくとともに、学校教育ビジョンの達成に向けて、学校運営に取り組んでいきたいと考えます。また、中学校区の連携を深め、取り組みを広めることで、より地域に根差したコミュニティスクールが確立され则认为られます。中学校区として、9年間の学びを保障するために、どのような活動をしていくべきなのかを検討し、取り組みを進めていきたいと思います。